

今西乃子さん(児童文学作家)が選んだ「子どもたちに読んでもらいたい本 10 冊」

資料	コメント
<p>マヤの一生 椋 鳩十/著 大日本図書 1987</p>	<p>太平洋戦争の末期に行われた犬の供出について書かれた本。子どもたちに、動物という視点から戦争について知り、考えてほしい。私が宝としている本。 おすすめ読者対象：小学校中学年～</p>
<p>星の王さま サン・デクジュペリ/著 岩波書店 1979</p>	<p>読むたびに様々な解釈が読者の中に生まれ、100 回読んでも新たな発見がある本。児童書でありながら哲学的なメッセージに満ち溢れている。 おすすめ読者対象：小学校高学年～</p>
<p>手ぶくろを買いに 新美 南吉/著 1988</p>	<p>読者が母親なら母親の気持ちになって、読者が子どもならこぎつねの気持ちになって親子でともに楽しめる絵本。読者の年齢によって受け取り方、感じ方が大きく変わる。 おすすめ読者対象：幼児（親子）～</p>
<p>ぼくものがたり いもと ようこ/著 金の星社 2012</p>	<p>飼い主に捨てられて動物愛護センターに行き、殺処分されてしまう犬のお話。犬目線で命について問いかける本。 おすすめ読者対象：幼児（親子）～</p>
<p>シーラという子 トリイ ヘイデン/著 早川書房 1996</p>	<p>問題行動の多い児童に真摯に向き合い、児童との深い絆を結んだ著者本人の自伝。感動のノンフィクション。 おすすめ読者対象：中学生や学校の先生</p>

今西乃子さん(児童文学作家)が選んだ「子どもたちに読んでもらいたい本 10 冊」

<p>アルジャーノンに花束を ダニエル・キイス/著 早川書房 1989</p>	<p>知的障害者の一人の男性が、手術によって天才的知能を手に入れた話。本当の幸せとは何か、ということを考えさせられる。 おすすめ対象：中学生～</p>
<p>おちこぼれてエベレスト 野口 健/著 集英社 1999</p>	<p>落ちこぼれだった著者が世界7大陸の最高峰を目指したノンフィクション。自己肯定感とは何か。敗北が大きなバネにすら成りえると教えてくれる本。生きている意味が分からない、自分に自信が持てないという子にもおすすめ。 おすすめ読者対象：中学生～</p>
<p>モリー先生との火曜日 ミッチ・アルボム/著 日本放送出版協会 1998</p>	<p>病に侵された恩師との特別な時間。死の床で行われる授業に教科書はない。人生について深く考えさせられる本。 おすすめ読者対象：ヤングアダルト</p>
<p>吉田松陰 童門 冬二/著 学陽書房 2001</p>	<p>私はこの本を読んで「じんざい」という漢字は「人材」ではなく「人財」と書くべきだと感じた。教育者のあり方、教育の重要性など普遍的なテーマが盛りだくさんの本。 おすすめ読者対象：中学生～</p>
<p>捨て犬・未来「命の約束」 今西 乃子/作 岩崎書店 2014</p>	<p>おなじみ捨て犬・未来シリーズの最新刊で私自身の本。ペットの命と、肉となる牛や豚の命の違いはあるの？子どもたちの素朴な疑問に応えた1冊。 おすすめ読者対象：小学校中学年～</p>